

暮らしに潜むプラスチックごみの「種」



賢く付き合える?身のまわりのプラスチック

プラスチックは、衣類、食品包装、家電、住宅建材など、私たちの衣食住すべてに広がっています。ごみを減らすためにプラスチックの使用量を減らすことはもちろん大切ですが、完全に「ゼロ」にするのは現実的ではありません。そこで考えたいのは、私たちの身のまわりにあるプラスチックの中で、本当に必要なものと代わりがきくものは何かということや、プラスチックを使い終わったあとのことについてです。

▶ ワークシート タスク 01

参考Webサイト

プラスチック・スマート
Plastics Smart

▶ ここをクリック!

または p.10 の一覧表を参照

なぜ自然界に? 様々な要因で流出するプラスチック

私たちの生活から出るごみには、大きく分けて2つの流れがあります。ひとつは回収されて処理のルートに乗るごみ、もうひとつは処理のルートから外れて自然界に流れてしまうごみです。後者の典型例はパイ捨てされたごみですが、ほかにも様々な要因で処理のルートから外れて、自然に出ていってしまうことがあります。どのような要因があるのかを考えてみましょう。



(左上) 出典: 神奈川県環境科学センター, “相模湾沿岸域におけるマイクロプラスチック汚染の実態解明”, 研究内容の紹介, <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/a2d/cnt/sciencelab/2020kanyokagaku.html>, (2025.10).



▶ ワークシート タスク 02-03

探究の道しるべ

知識をどのように分類するか?

▶ ここをクリック!

または p.09 の一覧表を参照

なぜ問題になっている? マイクロプラスチック

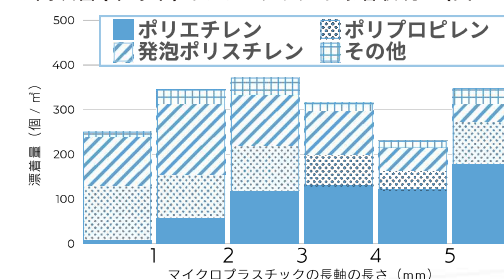
海に流れ出したごみの中でも、大きな問題となっているのがマイクロプラスチックです。プラスチックは、紫外線や波の力で劣化し、細かくなります。そして、5mm未満になったものをマイクロプラスチックといいます。神奈川県環境科学センターの調査では、相模川の水1㎡から平均2.3個、さらに相模川が相模湾にそそぐ高浜台海岸(平塚市)の砂浜1㎡から約1900個以上のマイクロプラスチックが確認されました。県内のほかの河川や海岸でも同様にマイクロプラスチックが見つかっていて、汚染の広がりがわかります。海を守るためには、目に見えにくい小さなごみにも注意を向けることが欠かせません。

▶ ワークシート タスク 04



出典: 神奈川県環境科学センター, “相模湾沿岸域におけるマイクロプラスチック汚染の実態解明”, 研究を始めた経緯, <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/a2d/cnt/sciencelab/2020kanyokagaku.html>, (2025.10).

▼高浜台(平塚市)のプラスチックの漂着状況 (図2-1)



出典: 神奈川県環境科学センター, “漂着マイクロプラスチック調査から見た海洋プラスチック汚染”, 神奈川県環境科学センター研究報告 No.46, 2023, 2.2 黒潮の湾内流入がない場合の漂着状況, p4

▼海岸で見つかる主なマイクロプラスチック(写真協力: 神奈川県環境科学センター)

